

マフムード・アッバスの後継者：フセイン・アッシェイフとはどんな人？

ロバート・インラケシュ著、脇浜義明訳、パレスチナ・クロニクル、2015年5月2日 *脚注は訳注



パレスチナ自治政府 (PA) 高官フセイン・アル＝シェイク。(Photo: via Al-Sheikh official website)

長年マフムード・アッバスの右腕と見られてきたフセイン・アッシェイフは、パレスチナ人から協調と抑圧の象徴として広く見られている、非常に物議を醸している人物である。

昨月末、フセイン・アッシェイフと男が、パレスチナ自治政府 (PA) 大統領で PLO 議長のマフムード・アッバスから PLO の副議長に任命された。これは西岸地区を統括する PA 大統領アッバスの後継者となるという印である。

選挙で選ばれたわけでもない現大統領アッバスは、先週、第 32 回パレスチナ中央委員会で、副大統領職を設置することを決めた。そしてアッシェイフを副大統領に任命したが、アッバス一味でない多くの人から、アッシェイフはパレスチナ人民の間で悪評があるが、彼は何者だという質問が上がった。

彼は 1960 年 12 月 14 日生まれで、ラマッラーで生まれたが、一家は占領地ラームレ近くのデイル・タリフ村から追い出された難民であった。1970 年代、彼はファタハのメンバーとなった。

しかし、教育を受ける前に、18 歳でイスラエル占領軍に逮捕され、ファタハの青年ということで 11 年間の服役となった。イスラエルの刑務所で彼はヘブライ語を身に着けた。

1989 年、第一次インティファダのたけなわの頃に釈放された。彼はたちまち地方レベルのファタハのリーダーとなった。それから、1993 年オスロ・プロセスの開始とパレスチナ自治政府 (PA) 設立を受けて、彼は PA 保安隊に入り、やがて予防安全保障部 (諜報部)¹の大佐になった。

¹ オスロ合意に反対し、PLO と PA の妥協路線に反対する勢力を弾圧するために設けられた内部情報機関。

第二次インティファダ時代、フセイン・アッシェイフはファタハ党内で権力を高めていったが、当時の PA 大統領のヤーセル・アラファートはアッシェイフという人物と彼が担っているとアラファートが思った彼の役割を嫌っていた。それが高まって、アラファートはアッシェイフをファタハ指導部の分裂の種をまいているとして逮捕を命じた。

「ラマッラーのこっちの男」

イスラエルの和平系と言われるメディア『シハ・メコミット』の最近の記事は、アッシェイフを「ラマッラーのこっちの男」と表現した。その記事は彼が PA のイスラエル占領軍との協力調整省の長をしていた頃を詳述し、その時にイスラエル政府との関係を深め、後に悪名高い占領軍との「治安協力」実施で一役を担った。

実際、イスラエルの治安関係高官もアッシェイフを「ラマッラーの我々の子飼いの奴」と、『フォーリン・ポリシー』誌に語ったことがあった。

64 歳になったアッシェイフはこれまで長い間 PA 大統領と親密な関係を維持し、アッバスの右腕と言われるようになり、2022 年には PLO 執行委員会の事務総長に出世した。これで彼は、自動的に、PA の指揮系統で二番目の権力者となったのである。

アル・ジャジーラの上級政治アナリストのマルワン・ビシャラは、アッシェイフが大統領に次ぐ偉い地位に公式に任命されたことにコメントして、アッバスのよって「18 年間育てられた」結果だと説明した。「イスラエルは彼という人物をよく知って信頼している —— 実際アッバス以上にアッシェイフを知り、信頼している」と書いた。

アッシェイフはイスラエルとの治安協力を推し進めただけでなく、アッバス大統領のために、アッバスのファタハ内のライバルであるムハンマド・ラハランやマルワン・バルグーチと闘った。おそらく、ファタハ内部から彼のことを正確に説明したのはファタハの革命評議会 (FRC) のファハリー・バルグーチであろう。彼は次のように言った：

「フセインは自分の私利のためと占領軍が彼に期待した役目のために働いた。彼に割り当てられた最も重要な任務はマルワン・バルグーチをやっつけるための陰謀の企てであった。フセインは西岸地区の組織 (PA) 責任者で、イスラエルに歯向かうレジスタンス戦士を弾圧する反愛国的行動を司る責任者であった。」

現にアッシェイフは「イスラエルとの協力」が彼が平和と呼ぶものをもたらす唯一の道だとうとうと宣言している。

西岸地区の弾圧

ガザ回廊のジェノサイドが始まってから、PA はイスラエルと協力して西岸地区のレジスタンス戦士を厳しく弾圧し、反対派の口を封じた。このため、パレスチナ人民の間で PA に対する不満と怒りが高まった。マフムード・アッバスは 20 年間 PA 大統領として君臨し、民主主義選挙を無視して窒息させた。彼を正式な指導者ではないと考えるパレスチナ人は多い。ある世論調査では、1967 年に占領されたパレスチナの地の住民の 70～90% が彼の辞任を望んでいた。従って、フセイン・アッシェイフを自分の後継者とするアッバスの決定を正統で合法的でないといほとんどのパレスチナ人が思っている。

アッバスが健康上の理由か死亡によって大統領でなくなったときは、パレスチナ法律によって、民主主義的選挙が行われるまで、一時的に暫定大統領が置かれる。その暫定大統領とアッバスが指定していた人物は、ラウヒ・ファトゥーフというファタハ幹部で、汚職で悪名が高い男だ。

たぶん選挙が出来そうにないので、アッシェイフが一時的暫定期間の前か後に自動的に大統領になるかどうかは分からない。PA が選挙をしない理由は、様々な世論調査で、イスラエルに協力し媚びを売るラマッラーのエリートの人気が悪いことが分かっているからである。

前のパレスチナ立法評議会ではハマスが勝利したように、議会選挙ではハマスが勝利し、大統領選挙では、インティファダを指導したファタハのマルワン・バルグーチが、もし刑務所から立候補すれば、勝ちそうである。